

ルカの福音書 91回

イエスの教え3題 -ダビデの子、偽善、献金-

20:41~21:4

1. 文脈の確認

(1) エルサレムでの奉仕が始まった (19:28~21:38)。

- ①勝利の入城 (19:28~44)
- ②諸々の教え (19:45~21:4)
- ③神殿崩壊の予告 (21:5~36)
- ④まとめ (21:37~38)

(2) 諸々の教え (19:45~21:4)

- ①宮きよめ (19:45~46)
- ②イエスの教えの要約 (19:47~48)
- ③権威に関する論争 (20:1~8)
- ④ぶどう園の農夫のたとえ話 (20:9~18)
- ⑤カエサルへの納税に関する質問 (20:19~26)
- ⑥復活に関する質問 (20:27~40)
- ⑦ダビデの子に関する質問 (20:41~44)
- ⑧律法学者の偽善 (20:45~47)
- ⑨やもめの献金 (21:1~4)

(3) 注目点

- ①この箇所から、イエスが攻めの姿勢に転じる。

2. アウトライン

- (1) 質問-ダビデの子 (20:41~44)
- (2) 警告-律法学者の偽善 (20:45~47)
- (3) 称賛-やもめの献金 (21:1~4)

3. 結論

- (1) メシアの二性
- (2) 長い衣
- (3) やもめの献金

イエスの教え3点について考える。

### I. 質問—ダビデの子(20:41~44)

#### 1. 41節

Luk 20:41 すると、イエスが彼らに言われた。「どうして人々は、キリストをダビデの子だと言うのですか。」

(1) パリサイ人やサドカイ人が質問しなくなったので、今度はイエスが質問する。

- ①これは、メシアの本質を理解させるための神学的質問である。
- ②イエスは「私を誰だと言うか」ではなく、一般論的な質問をした。

(2) パリサイ人たちは、メシアはダビデの家系から誕生すると教えていた。

- ①それゆえ、メシアのことを「ダビデの子」と呼んだ。
- ②彼らが描くメシア像は、ダビデのような解放者としてのメシアである。
  - \*メシアはローマの圧政から自分たちを救ってくれるという期待があった。
- ③イエスの質問は、「メシアはどういう意味でダビデの子なのか」ということ。

#### 2. 42~43節

Luk 20:42 ダビデ自身が詩篇の中で、こう言っています。／『主は、私の主に言われた。／「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。」』

Luk 20:43 わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするまで。』

(1) 詩110:1からの引用

Psa 110:1 【主】は 私の主に言われた。／「あなたは わたしの右の座に着いていなさい。／わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするまで。」

- ①前書きには、「(ダビデによる。賛歌)とある。
- ②イエスは、詩篇110篇がダビデの作であることを認めた。
- ③詩篇110篇は、新約聖書に最も引用されている詩篇である。

(2) ダビデは、神から啓示を受けた預言者としてメシア預言を語っている。

- ①最初の「【主】」は、「ヤハウエ」である。
  - \*父なる神である。
- ②次の「私の主」は、「アドナイ」である。
  - \*子なる神である。
- ③これは、父なる神から子なる神への宣言である。
  - \*昇天したメシアは、今、父なる神の「右の座」に着いておられる。
  - \*「右の座」とは、権威ある地位のことである。
  - \*この状態は、「わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで」続く。

\*つまり、敵が完全に征服されるまで続くということである。

### 3. 44節

**Luk 20:44** ですから、ダビデがキリストを主と呼んでいるのです。それなら、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」

(1) イエスが投げかけた質問

- ①なぜダビデは、自分の子孫である人物を、「私の主」と呼ぶのか。
- ②マタ 22:46

**Mat 22:46** するとだれ一人、一言もイエスに答えられなかった。その日から、もうだれも、あえてイエスに質問しようとはしなかった。

- ③回答は、メシアの二性にある。

## II. 警告—律法学者の偽善 (20:45~47)

### 1. 45節

**Luk 20:45** また、人々がみな耳を傾けているときに、イエスは弟子たちに言われた。

(1) これは弟子たちと群衆に対する警告である。

- ①彼らは、イエスと律法学者たちの論争に耳を傾けてきた。
- ②その彼らに、イエスはパリサイ主義の誤りを教える。
- ③すでに 11:37~54 で詳細な律法学者への批判が出ていた。
- ④ここでは、短い要約が出てくる。

### 2. 46~47節

**Luk 20:46** 「律法学者たちには用心しなさい。彼らは長い衣を着て歩き回ることが好きで、広場であいさつされることや会堂の上席、宴会の上座を好みます。

**Luk 20:47** また、やもめの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈ります。こういう人たちは、より厳しい罰を受けるのです。」

(1) 律法学者たちの行動の動機は、人に見せるためである。

- ①内面の実質ではなく、外面の評価にこだわる。

(2) 長い衣を着て歩き回ることが好き。

- ①長い衣のすその四隅に、人目を引くようなふさを付ける。
- ②民 15:38 の規定

(3) 広場であいさつされることや会堂の上席、宴会の上座を好む。

- ①自分が重要人物であることを誇示したい。

- ②混雑している広場であいさつされると、エゴが満たされる。
- (4) やもめの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈る。
  - ①やもめの保護は、モーセの律法の要請である。
  - ②しかし、パリサイ人たちはやもめの財産を取り上げた。
    - \* 高額の献金の要請
  - ③長い祈りは、自らの貪欲を隠すためのものである。
    - \* この決定をする前に長く祈ったと言いながら、やもめの家を抵当に取る。
  - ④長い祈りが問題なのではなく、祈りの動機が問題である。
  - ⑤こういう人たちは、人一倍きびしい罰を受ける。
    - \* 白い御座の裁き

### III. 称賛—やもめの献金 (21:1~4)

#### 1. 1~2節

Luk 21:1 イエスは目を上げて、金持ちたちが献金箱に献金を投げ入れているのを見ておられた。

Luk 21:2 そして、ある貧しいやもめが、そこにレプタ銅貨を二枚投げ入れるのを見て、

- (1) 諸々の教えの最後のエピソードである。
  - ①イエスは異邦人の庭で教えていたが、そこから婦人の庭に移動する。
  - ②20:47に続いて、やもめのエピソードが続く。
- (2) 婦人の庭の一方の壁に、献金箱が置かれていた。
  - ①13個あったが、それぞれ目的が異なる献金箱であった。
    - \* 9つが律法の命令によるもので、4つが自発的なささげ物。
  - ②箱の入り口が、ラッパの形をしていた。
  - ③男女の区別なく献金ができるように、婦人の庭に置かれた。
- (3) イエスは、巡礼者たちがどのように献金を献げるかを観察しておられた。
  - ①金持ちたちは、大金を投げ入っていた (マコ 12:41)。
  - ②ある貧しいやもめが、レプタ銅貨を2枚投げ入れた。
    - \* レプタは、当時流通していた最小単位のユダヤの銅貨である。
    - \* レプタ2枚は、ローマのデナリの64分の1である。
    - \* 1デナリ(日当)を仮に1万円とすると、レプタ2枚は156円である。

#### 2. 3~4節

Luk 21:3 こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、だれよりも多くを投げ入れました。

Luk 21:4 あの人はみな、あり余る中から献金として投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っていた生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」

(1) これは、弟子たちへの教えである。

- ①人間による評価では、どれくらいの額を投げ入れたかで価値が決まる。
- ②イエスによる評価では、どれくらいの犠牲を払ったかで価値が決まる。
- ③このやもめは、生活費の全部を投げ入れた。

## 結論

### 1. メシアの二性

(1) 「どうして人々は、キリストをダビデの子だと言うのですか」

- ①この質問は、キリストの二性を教えるためのものである。
- ②詩 110:1 は、キリストが神であり、人であることを教えている。
- ③「ダビデの子」ということばは、キリストの人性を表している。
- ④「私の主」ということばは、キリストの神性を表している。

(2) 今もユダヤ人たちは、メシアの二性に目が開かれていない。

- ①現代のメシアニックムーブメントの中にも、目が開かれていない人がある。
- ②モルモン教、エホバの証人も同じ問題を持っている。

(3) もし「教えられやすい心」を持っているなら、イエスを信じるはずである。

### 2. 長い衣

(1) 特殊なデザインの衣服（すその四隅にふさを付ける）は、自分たちが選びの民であることを思い出すためのものである。

- ①ユダヤ人には、異邦人と同化しないで生きていくことが期待された。
- ②青いひもは、王子の身分を示すものである。

(2) パリサイ人たちは、敬虔そうに見せるために、長い衣をまとった。

- ①律法主義とは、律法の本来の目的を忘れ、外面だけを整えることである。
- ②律法主義とは、神が命じていないことを人間の律法にすることである。

### 3. やもめの献金

(1) ここには、パリサイ人たちとやもめの信仰の対比がある。

- ①イエスは神殿の中で初めて小さな光を見た。
- ②このやもめは、イエスを信じる者が見習うべき手本である。

(2) ここには、全的献身の姿がある。

- ①口伝律法では、慈善のための献金は2レプタ以上とされていた。
  - ②ここでの献金は、慈善のためではないので、1レプタでもよかった。
  - ③しかし彼女は、神が必要を満たしてくださることを信じ、すべて献げた。
- (3) 主イエスの愛に応答する方法は、全的献身しかない。

ルカの福音書 92回  
神殿崩壊の予告ー終末時代を生き延びる秘訣ー  
21：5～36

1. 文脈の確認

(1) エルサレムでの奉仕（19：28～21：38）。

- ①勝利の入城（19：28～44）
- ②諸々の教え（19：45～21：4）
- ③神殿崩壊の予告（21：5～36）
- ④まとめ（21：37～38）

(2) 注目点

- ①この箇所は、ルカによるオリーブ山の説教である。
- ②神殿崩壊のしるし、再臨のしるし、世の終わりのしるしを区別する。

2. アウトライン

- (1) 教会時代の特徴（5～9節）
- (2) 終わりの時代のしるし（10～19節）
- (3) 神殿崩壊のしるし（20～24節）
- (4) 再臨のしるし（25～33節）
- (5) 霊的備え（34～36節）

3. 結論：適用

イエスが語った預言について考える。

I. 教会時代の特徴（5～9節）

1. 5～6節

Luk 21:5 さて、宮が美しい石や奉納物で飾られている、と何人かが話していたので、イエスは言われた。

Luk 21:6 「あなたがたが見ているこれらの物ですが、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることのない日が、やって来ます。」

(1) 人々が神殿の素晴らしさに感動していたので、イエスはこの説教をされた。

- ①神殿は永遠ではなく、破壊される日がやってくる。

(2) 内容は、オリーブ山での説教と同じであるが、その情報は省略されている。

- ①ルカは、教えの継続性を重視している。
- ②一連の教えのクライマックスになっている。
- ③弟子たちだけでなく、すべての人に重要な内容である。

## 2. 7節

Luk 21:7 そこで彼らはイエスに尋ねた。「先生、それでは、いつ、そのようなことが起こるのですか。それが起こるときのしるしは、どのようなものですか。」

- (1) 人々は、イエスに当然の質問をした。
  - ①いつ起こるのか。
  - ②それが起こるときのしるしは、何か。
- (2) これは、不信仰から出た質問ではない。
  - ①神殿崩壊は、ユダヤ教の終わりを意味する。
  - ②バビロン捕囚と似たようなことが起こる。
  - ③そうなれば、この世が終わり、御国が到来する。

## 3. 8～9節

Luk 21:8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れて、『私こそ、その者だ』とか『時は近づいた』とか言います。そんな人たちの後について行ってはいけません。

Luk 21:9 戦争や暴動のことを聞いても、恐れてはいけません。まず、それらのことが必ず起こりますが、終わりはすぐには来ないからです。」

- (1) ここでイエスは、教会時代の特徴を挙げる。
  - ①偽キリストが大勢現れる。
  - ②彼らは、再臨は近いと預言する。
  - ③戦争や暴動がおこるが、終わりはすぐにはこない。

## II. 終わりの時代のしるし（10～19節）

### 1. 10～11節

Luk 21:10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、

Luk 21:11 大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるしが現れます。

- (1) 「それから」
  - ①ここでイエスは、別のテーマ（終わりの時代）を取り上げる。



②終わりの時代のしるしが起こる。

- \* 世界戦争
- \* 大きな地震
- \* 飢饉や疫病
- \* 恐ろしい光景や天からの大きなしるし

## 2. 12～15節

Luk 21:12 しかし、これらのことすべてが起こる前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出します。

Luk 21:13 それは、あなたがたにとって証しをする機会となります。

Luk 21:14 ですから、どう弁明するかは、あらかじめ考えない、と心に決めておきなさい。

Luk 21:15 あなたがたに反対するどんな人も、対抗したり反論したりできないことばと知恵を、わたしが与えるからです。

(1) 患難期がくる前に、イエスの弟子たちは迫害に遭う。

- ①この説教の時点から再臨までの間に起こる迫害が予告される。
- ②ユダヤ人たちによる迫害
- ③異邦人たちによる迫害

(2) 迫害は、証しの機会となる。

- ①事前に弁明のことばを考える必要はない。
- ②そのときになれば、必要なことばと知恵は、イエスと聖霊によって与えられる。
- ③使徒の働きには、多くの実例が出ている。

## 3. 16～19節

Luk 21:16 あなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにも裏切られます。中には殺される人もいます。

Luk 21:17 また、わたしの名のために、すべての人に憎まれます。

Luk 21:18 しかし、あなたがたの髪の毛一本も失われることはありません。

Luk 21:19 あなたがたは、忍耐することによって自分のいのちを勝ち取りなさい。

(1) 迫害は、家族や知人たちからもやってくる。

- ①中には、殉教の死を遂げる人も出る。

(2) イエスの弟子は、神の守りを経験する。

- ①霊的守りと解釈する人もいるが、そうではないだろう。

②神の許可なくしては、何も起こらないという意味であろう。

(3) 忍耐は、永遠の報奨をもたらす。

①忍耐によって救いを得るわけではない。

②救いは、恵みと信仰によって得られる。

### III. 神殿崩壊のしるし (20～24 節)

#### 1. 20 節

Luk 21:20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

(1) イエスは、神殿崩壊のテーマに戻る。

①神殿崩壊のしるしは、敵の軍隊による包囲である。

②紀元 68 年、ローマ軍はエルサレムを包囲した。

#### 2. 21～22 節

Luk 21:21 そのとき、ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。都の中にいる人たちはそこから出て行きなさい。田舎にいる人たちは都に入ってはけません。

Luk 21:22 書かれていることがすべて成就する、報復の日々だからです。

(1) ユダヤ人たちは、都から遠ざかるように命じられた。

①戦時下にあっては、町に逃げ込むのが普通である。

②ここでは、正反対のことが命じられた。

(2) エルサレムに神の裁きが下ろうとしているからである。

①それは、「報復の日々」である。

②イエスは、紀元 70 年のエルサレム崩壊を預言された。

③ダニ 9：26

Dan 9:26 その六十二週の後、／油注がれた者は断たれ、彼には何も残らない。／次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。／その終わりには洪水が伴い、／戦いの終わりまで荒廃が定められている。

④初代教会の信者たちは、ヨルダン川東岸のペラという町に避難した。

#### 3. 23～24 節

Luk 21:23 それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。この地に大きな苦難があり、この民に御怒りが臨むからです。

Luk 21:24 人々は剣の刃に倒れ、捕虜となって、あらゆる国の人々のところに連れて行かれ、

異邦人の時が満ちるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

- (1) エルサレム崩壊の日は、すべてのユダヤ人にとって苦難の日となる。
  - ①彼らは戦死し、捕虜となり、他国に連行される。
  - ②ヨセフスによれば、戦死者は110万人、捕虜は9万7千人。
  
- (2) この状態は、異邦人の時が満ちるまで続く。
  - ①「異邦人の時」とは、異邦人がエルサレムを支配している時代である。
  - ②ネブカドネツアルによるエルサレム征服（前586）から再臨までの期間。
  - ③今も、「異邦人の時」が続いている。

#### IV. 再臨のしるし（25～33節）

##### 1. 25～26節

Luk 21:25 それから、太陽と月と星にしるしが現れ、地上では海と波が荒れどよめいて、諸国の民が不安に陥って苦悩します。

Luk 21:26 人々は、この世界に起ころうとしていることを予測して、恐ろしさのあまり気を失います。天のもろもろの力が揺り動かされるからです。

- (1) イエスは、再臨の前に現れるしるしに言及する。
  - ①「異邦人の時」が終わる前の患難期の状態が預言される。
  - ②全世界を襲う患難が預言される。
  - ③天変地異が起り、人々は不安と絶望に襲われる。

##### 2. 27～28節

Luk 21:27 そのとき人々は、人の子が雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見ます。

Luk 21:28 これらのことが起り始めたら、身を起こし、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。」

- (1) 最悪の状況を迎えたときに、人の子の再臨が起こる。
  - ①人々は、シャカイナグローリーとともに来られるメシアを見る。
  
- (2) 患難が襲い始めたなら、メシア的王国が近づいていることを知るべきである。
  - ①身を起こし、頭を上げるとは、希望を表明することである。

##### 3. 29～31節

Luk 21:29 それからイエスは、人々にたとえを話された。「いちじくの木や、すべての木を見なさい。

Luk 21:30 木の芽が出ると、それを見て、すでに夏が近いことが、おのずから分かります。

Luk 21:31 同じように、これらのことが起こるのを見たら、あなたがたは神の国が近いことを知りなさい。

(1) いちじくの木のとえ

- ①春の木の芽が出ると、夏が近づいていることが分かる。
- ②イエスが挙げた数々の患難は、神の国が近いことのしるしである。

## 2. 32～33節

Luk 21:32 まことに、あなたがたに言います。すべてのことが起こるまで、この時代が過ぎ去ることは決してありません。

Luk 21:33 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。

(1) 「まことに、あなたがたに言います」

- ①イエスが預言したことは、必ず成就する。
- ②「この時代」は、「this generation」である。
  - \* 患難期に天変地異を目撃するユダヤ人たちである（25節）。
  - \* 患難期にあっても、ユダヤ民族が減びることはない。

## V. 霊的備え（34～36節）

### 1. 34～35節

Luk 21:34 あなたがたの心が、放蕩や深酒や生活の思い煩いで押しつぶされていて、その日が罨のように、突然あなたがたに臨むことにならないように、よく気をつけなさい。

Luk 21:35 その日は、全地の表に住むすべての人に突然臨むのです。

(1) 弟子たちへの警告が語られる。

- ①これは、当時生きていた弟子たちへの警告である。
- ②と同時に、すべての時代の弟子たちへの警告でもある。

(2) 「その日」とは、エルサレム崩壊の日でなく、携挙の日である。

- ①全地の表に住むすべての人に突然臨む。
- ②霊的関心がなくなると、その日は罨のように突然人々の臨むようになる。

### 2. 36節

Luk 21:36 しかし、あなたがたは、必ず起こるこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈っていなさい。」

(1) 人の子の前に立つために、霊的生活を維持する必要がある。

- ①祈りは、霊的力をもたらす。

結論：適用

1. ルカの福音書の最初の読者たち

- (1) 彼らは、ペンテコステとエルサレム崩壊の間の時代に生きていた。
- (2) その後、彼らの多くが、エルサレム崩壊を体験した。
- (3) その体験によって、それ以外の預言も成就するという確信に導かれた。
- (4) 彼らにとっては、霊的備えは現実の課題であった。

2. エルサレム崩壊と患難期の中の信者

- (1) エルサレム崩壊と患難期の間には、およそ2千年の隔りがある。
- (2) 新約聖書の預言によれば、患難期の前に携挙がある。
- (3) イエスは、携挙を前提に霊的備えの勧めを説いた。
- (4) パウロも、携挙を前提に霊的備えの勧めを説いた。
  - ① ロマ13：13、ガラ5：21、エペ5：18
  - ② 1テサ5：4～11、17

3. 携挙以降に信じる者

- (1) 彼らは、患難期を通過する。
- (2) 彼らには、より真剣な霊的備えが必要である。
- (3) 再臨が数年後に迫っているからである。

ルカの福音書 93回

ユダの裏切り

21:37~22:6

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難 (22~23章)

- ① 宗教的指導者たちの陰謀 (22:1~6)
- ② 過越の食事の準備 (22:7~13)
- ③ 二階の大広間での出来事 (22:14~38)
- ④ イエスの逮捕 (22:39~53)
- ⑤ イエスの裁判 (22:54~23:25)
- ⑥ イエスの死 (23:26~49)

(2) 注目点

- ① エルサレムでの奉仕のまとめ (21:37~38) が残っている。
- ② 宗教的指導者たちの陰謀 (22:1~6)
  - \* 指導者たちの思惑 (1~2節)
  - \* ユダの裏切り (3~6節)

2. アウトライン

- (1) エルサレムでの奉仕のまとめ (21:37~38節)
- (2) 指導者たちの思惑 (22:1~2節)
- (3) ユダの裏切り (22:3~6節)

3. 結論：神のゴール

宗教的指導者たちの陰謀について学ぶ。

I. エルサレムでの奉仕のまとめ (21:37~38節)

1. 37~38節

Luk 21:37 こうしてイエスは、昼は宮で教え、夜は外に出てオリーブという山で過ごされた。

Luk 21:38 人々はみな朝早く、教えを聞こうとして、宮におられるイエスのもとにやって来た。

(1) ルカだけに出てくる要約である。

- ① 最後の週（受難週）、イエスは神殿域（異邦人の庭）で人々に教えた。
- ② メシアである自分を信じて救われるようにというメッセージであろう。

③夜になると、外に出て、オリーブ山で過ごされた。

\*日没後（午後6時）、12弟子とともに、オリーブ山に行かれた。

\*天地の創造主が、ホームレスとられた。

## (2) 過越の祭りの期間のエルサレム

①エルサレムの人口は、20～25万人であった。

②祭りの期間、人口は2～3百万人になった（ヨセフスの記録）。

③巡礼者たちは、城壁の外、安息日の距離内（約800m）にテントを張った。

④イエスは、ゲツセマネの園で寝た可能性がある。

## (3) 人々の積極的な反応

①人々は、朝早く、イエスの教えを聞こうとしてやって来た。

\*日の出とともに（午前6時頃）

\*彼らは、イエスのメッセージを理解し始めている。

②イエスから何かもらうために押しかけて来た群衆とは違う。

③イエスを訴えるために耳を傾けていた指導者たちとも違う。

④いかなる場合でも、神のことばに心を開く人はいる。

## II. 指導者たちの思惑（22：1～2節）

### 1. 1節

Luk 22:1 さて、過越の祭りと言われる、種なしパンの祭りが近づいていた。

#### (1) 過越の祭りと種なしパンの祭り

①本来は、過越の祭りは1日の祭りである。

②種なしパンの祭りは、その翌日から始まる7日間の祭りである。

③イエス時代には、両者が合体して8日間の祭りとなっていた。

④今もユダヤ人たちは、8日間の祭りを祝う。

#### (2) 指導者たちは、イエスを殺すことに決めていた。

①過越の祭りの時期は、イエスを逮捕し、裁判にかけるのに好都合であった。

②ユダヤ総督のポンティオ・ピラトは、エルサレムに滞在していた。

③ガリラヤの領主ヘロデ・アンティパスも、エルサレムにいた。

### 2. 2節

Luk 22:2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を探していた。彼らは民を恐れていたのである。

- (1) 祭司長（サドカイ派）、律法学者（パリサイ派）、民の長老たち（マタ 26：3）
  - ①大祭司カヤパの邸宅に集まった（マタ 26：3）。
  
- (2) イエスを捕えて殺すことで意見の一致を見ていた。
  - ①有罪判決の前に殺すことを決めるのは、律法違反である。
  - ②律法の守護者であるべき人たちが、率先して律法を破っていた。
  
- (3) 指導者たちの2つのゴール
  - ①民衆が見ていないところでイエスを逮捕する。
  - ②過越の祭りが終わってから、イエスを殺す。
  
- (4) 彼らは、民衆の暴動を極度に恐れた。
  - ①サドカイ派は親ローマであり、現状維持派である。
  - ②暴動が起こると、ローマが介入してくる。
  - ③ユダが登場するまでは、イエスを逮捕する方法が見つからなかった。
  - ④ルカは、ベタニアでの油注ぎのエピソードを省略し、話を進める。

### III. ユダの裏切り（22：3～6節）

#### 1. 3節

Luk 22:3 ところで、十二人の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。

(1) ユダにサタンが入った。

①ヨハ 13：2

Joh 13:2 夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうという思いを入れていた。

- ②イエスの死は、単に人間の陰謀によるものではない。
- ③その背後には、神の計画を妨害するサタンの思惑があった。
- ④これは、宇宙大の戦争である。

(2) サタンは、イエスの死に介入したことによって、自らを滅ぼすことになる。

①コロ 2：15

Col 2:15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。

②へブ 2：14～15

Heb 2:14 そういふわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死



によって滅ぼし、

Heb 2:15 死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。

## 2. 4～5節

Luk 22:4 ユダは行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡すか相談した。

Luk 22:5 彼らは喜んで、ユダに金を与える約束をした。

(1) ユダは、イエスを引き渡す案を提示した。

①自分が手引きして、イエスを逮捕できるようにするという案である。

(2) 相手は、祭司長たちや宮の守衛長たちである。

①守衛長とは、神殿の守衛たちを統率する隊長である。

②ヨハ 18:3

Joh 18:3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやパリサイ人たちから送られた下役たちを連れ、明かりとたいまつと武器を持って、そこにやって来た。

(3) ルカの「喜び」というテーマが、ここでも登場する。

①罪人は、悪を行うことに喜びを覚える。

②彼らは、ユダに金を与える約束をした。

\*銀貨 30 枚

## 3. 6節

Luk 22:6 ユダは承知し、群衆がいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会を狙っていた。

(1) ユダの計画

①最高の瞬間を待つ。

②群衆がいないときに、イエスを宗教的指導者たちに渡す。

③しかし、ユダが計画していた「その時」は、こなかった。

④イエスによってその計画は見抜かれていた。

## 結論：神のゴール

### 1. メシアは、過越の祭りの日に死ぬ。

(1) 過越の祭りは、メシアの死の預言的枠組みである。

①もしそうでないなら、イエスはいつ逮捕されてもよかったことになる。

(2) イエスは、過越の祭りで屠られる神の子羊である。

(3) イエスは、ユダが行動を起こすように促した。

①ヨハ 13：27

Joh 13:27 ユダがパン切れを受け取ると、そのとき、サタンが彼に入った。すると、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、すぐしなさい。」

2. メシアは、十字架にかかって死ぬ。

(1) 申 21：23

Deu 21:23 その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。木にかけられた者は神にのろわれた者だからである。あなたの神、【主】が相続地としてあなたに与えようとしておられる土地を汚してはならない。

(2) イザ 53：5

Isa 53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、／私たちの咎のために砕かれたのだ。／彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、／その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

(3) 詩 22：18

Psa 22:18 彼らは私の衣服を分け合い／私の衣をくじ引きにします。

ルカの福音書 94回

過越の食事の準備

22：7～13

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難 (22～23章)

- ①宗教的指導者たちの陰謀 (22：1～6)
- ②過越の食事の準備 (22：7～13)
- ③二階の大広間での出来事 (22：14～38)
- ④イエスの逮捕 (22：39～53)
- ⑤イエスの裁判 (22：54～23：25)
- ⑥イエスの死 (23：26～49)

(2) 注目点

- ①ルカは、他の共観福音書よりも詳細に、この出来事を記録している。
- ②イエスを逮捕しようとする陰謀が背後で進行中である。
- ③イエスは、十字架に至る方法とタイミングを支配しておられる。

2. アウトライン

- (1) 時間設定 (7節)
- (2) ペテロとヨハネの派遣 (8～12節)
- (3) 過越の用意 (13節)

3. 結論：使徒の働きにつながる内容

- (1) その家の主人
- (2) ペテロとヨハネ

過越の食事の準備から教訓を学ぶ。

I. 時間設定 (7節)

1. 7節

Luk 22:7 過越の子羊が屠られる、種なしパンの祭りの日が来た。

(1) 当時の習慣

- ①過越の子羊を神殿に運び、そこで傷やしみがなく吟味された。
  - \* イエスは、4日間にわたりユダヤ人の指導者たちの吟味を受けた。
- ②ニサンの月の14日の午後3時から6時にかけて、子羊は屠られた。

\*鉢に受けた血が、祭壇の土台の部分に注がれた。

\*レビ人たちが、長い列を3つ作り、手渡しでその血を運んだ。

\*以上のことは、午後3時から6時にかけて行われた。

③屠られた子羊の肉は、過越の食事のために家に持ち運ばれた。

\*祭壇で焼かれる部分は、取り除かれた。

④家では、子羊の肉以外の食材も用意された。

\*種なしパン、苦菜、ぶどう酒など

(2)「種なしパンの祭り」とは、過越の祭りを含めた8日間のことである。

①その間、エルサレム周辺に、広大なテント村ができた。

②町は混雑しており、町の中で食事する場所を見つけるのは容易ではなかった。

③巡礼者たちは、テントの中で過越の食事をした。

④ベタニアはエルサレムの外なので、そこで食事する可能性はない。

⑤弟子たちは、どこで過越の食事をするか悩んでいたはずである。

(3) ここまでのイエスの活動

①イエスは、水曜日に神殿域でパリサイ人たちと論争された。

②さらに、オリーブ山の説教を語られた。

③7節は、水曜日から木曜日への移行を告げている。

\*通常、「種なしパンの祭りの日」は、ニサンの月の13日である。

\*この年では、水曜日に当たっていた。

\*この文脈では、「種なしパンの祭りの日」は、14日（木曜日）である。

④木曜日に過越の食事が準備された。

⑤日没後（ニサンの月の15日、金曜日）に、過越の食事をする。

## II. ペテロとヨハネの派遣 (8~12節)

### 1. 8~9節

Luk 22:8 イエスは、「過越の食事ができるように、行って用意をしろ」と言って、ペテロとヨハネを遣わされた。

Luk 22:9 彼らがイエスに、「どこに用意しましょうか」と言うと、

(1) イエスは、テント村ではなく、エルサレムにおいて過越の食事をしようとした。

①その準備を、ペテロとヨハネに命じた。

②この情報は、ルカだけに出てくるものである。

(2) 彼らは、「どこに用意しましょうか」と尋ねた。

- ①イエスが場所を隠していたのは、ユダに知られないためである。
- ②予定よりも早く逮捕されないようにするためである。

## 2. 10～12節

Luk 22:10 イエスは言われた。「いいですか。都に入ると、水がめを運んでいる人に会います。その人が入る家までついて行きなさい。

Luk 22:11 そして、その家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っております』と言いなさい。

Luk 22:12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこに用意をなさいます。」

- (1) 男が水がめを運ぶのは、珍しい光景である。
  - ①男は、皮袋に入れて水を運んだ。
  - ②女は、水がめで水を運んだ。
  - ③それゆえ、水がめを運ぶ男はすぐに見つかる。
  - ④これは、イエスが事前に準備していた決めごとであろう。
  
- (2) その人に会ったなら、彼が入る家までついて行く。
  - ①そして、その家の主人に、こう伝える。

「弟子たちと一緒に過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っております」
  - ②「先生」（ディダスカロス）は、弟子たちがイエスを呼ぶときのタイトル。
  - ③その家の主人は、イエスの弟子の一人である。
  
- (3) その家の主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれる。
  - ①屋上に用意された広間である。
  - ②建物の脇に二階に上る階段が付いている。
  - ③このような構造は、当時の裕福な家の特徴である。
  - ④その家の主人は、横になって食事ができるように、クッションを用意していた。

## III. 過越の用意（13節）

### 1. 13節

Luk 22:13 彼らが行ってみると、イエスが言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用意をした。

- (1) イエスは、小さなスケールの奇跡を行われた。
  - ①イエスの予知能力が証明された。

\*19:30~31

Luk 19:30 「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながれているのに気がつくでしょう。それをほどいて、連れて来なさい。

Luk 19:31 もし『どうして、ほどくのか』とだれかが尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」

\*ここでは、「主」（キュリオス）ということばが使用されている。

②イエスは、十字架に至る過程を支配しておられる。

(2) ペテロとヨハネは、当時の習慣に従って過越の食事の準備をした。

①彼らは、席順が気になったはずである。

### 結論：使徒の働きにつながる内容

#### 1. その家の主人

##### (1) 11節

Luk 22:11 そして、その家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言うております』と言いなさい。

①ペテロとヨハネは、「客間はどこですか」と尋ねた。

②「客間」は、ギリシア語で「kataluma」である。

③ふたりが案内されたのは、それよりも素晴らしい「大広間」であった。

④「大広間」は、ギリシア語で「anogeon」である。

##### (2) 2:6~7

Luk 2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、

Luk 2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

①「宿屋」は、「kataluma」である。

②イエスは、誕生のときには、客間さえ与えられなかった。

③しかし、公生涯の最後に、二階の大広間が用意された。

(3) 教会の伝承によれば、ここはヨハネ・マルコの両親の家である。

①この一家は、イエスのためにすべてを献げたのである。

②イエスが復活して以降の集会は、この場所で開かれた。

##### ③使1:12~14

Act 1:12 そこで、使徒たちはオリブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、安息日に歩くことが許される道のりのところにあった。

Act 1:13 彼らは町に入ると、泊まっている屋上の部屋に上がった。この人たちは、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであった。

Act 1:14 彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。

## 2. ペテロとヨハネ

(1) ルカだけが、派遣された弟子たちはペテロとヨハネであったことを記している。

- ①教会誕生以降、このふたりはリーダーとなる。
- ②先ほどの使1:13には、ペテロとヨハネがリストの最初に登場していた。
- ③使3:1~2

Act 3:1 ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。

Act 3:2 すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求めするために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。

### ④使8:14~15

Act 8:14 エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところに遣わした。

Act 8:15 二人は下って行って、彼らが聖霊を受けるように祈った。

(2) 私たちへの適用

- ①神は、将来のリーダーを訓練される。
- ②ほかの人よりも、苦勞が多い、仕事が多いと覚るこゝがあるかもしれない。
- ③それを嘆くのではなく、喜びの糧としよう。
- ④神は、あなたを用いようとしておられるのである。

ルカの福音書 95回  
二階の大広間での出来事（1）  
22：14～23

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難（22～23章）

- ①宗教的指導者たちの陰謀（22：1～6）
- ②過越の食事の準備（22：7～13）
- ③二階の大広間での出来事（22：14～38）
- ④イエスの逮捕（22：39～53）
- ⑤イエスの裁判（22：54～23：25）
- ⑥イエスの死（23：26～49）

(2) 二階の大広間での出来事（22：14～38）

- ①過越の食事（14～18節）
- ②新しい契約（19～20節）
- ③裏切りの予告（21～23節）
- ④弟子たちへの教え（24～30節）
- ⑤ペテロのつまずきの予告（31～34節）
- ⑥迫害に対する備え（35～38節）

(3) 注目すべき点

- ①共観福音書の中では、ルカの記述が最も詳しい。
- ②それよりも詳しいのは、ヨハネの福音書である（13～17章）。

2. アウトライン

- (1) 過越の食事（14～18節）
- (2) 新しい契約（19～20節）
- (3) 裏切り者の予告（21～23節）

3. 結論

- (1) イエスの公生涯
- (2) 神の国での過越の食事
- (3) 最後の晩餐の意味



二階の大広間での出来事について学ぶ。

## I. 過越の食事(14~18節)

### 1. 14節

**Luk 22:14 その時刻が来て、イエスは席に着かれ、使徒たちも一緒に座った。**

- (1) イエスは、状況を完全に支配しておられる。
  - ①「その時刻」とは、イエスが過越の食事をすると決めていた時刻である。
  - ②木曜日の日没後(午後6時過ぎ)に食事が始まる。
  - ③使徒たちもいっしょに席に着いた。
    - \*ギリシア語で「アナピプトウ」。英語で「recline」。横になる。
    - \*当時は、コの字型の低いテーブルで食事をした。
    - \*日常の食事は、座って食べていた。
- (2) 過越の食事の手順(セデル)は、中間時代に始まったとされている。
  - ①それが今日まで継続している。式文はハガダー。
  - ②イエスと弟子たちは、ユダヤ人たちが今も行っている手順で過越の食事をした。
- (3) ここでは、「使徒たち」ということばが使われている。
  - ①二階の大広間での出来事は、教会設立の土台となるものである。
  - ②使徒たちは、教会の指導者となる。
  - ③エペ2:20

**Eph 2:20 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。**

### 2. 15節

**Luk 22:15 イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。」**

- (1)「切に願っていました」
  - ①使徒たちといっしょに過越の食事をすること
  - ②食事の席で、重要な教えを語る必要があった。
  - ③この食事によって、イエスは、新しい出エジプトをもたらされる。

### 3. 16節

**Luk 22:16 あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。」**

- (1)「わたしが過越の食事をすることは、決してありません」

- ①強い否定形である。
- ②「過越が神の国において成就するまで」
- ③「過越の成就」とは、靈的解放と安息の成就である。
- ④旧約聖書の預言どおり、究極的解放は、メシア的王国で成就する。
- ⑤イエスはメシア的王国において、過越の食事をされる。

(2) これは、メシア的王国が設立される前に食される最後の過越の食事である。

- ①また、新しい契約が締結される食事でもある。
- ②贖いの血によって新しい契約が締結される。

### 3. 17～18節

Luk 22:17 そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。

Luk 22:18 あなたがたに言います。今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」

(1) 過越の食事には4つの杯がある。

- ①感謝の杯
- ②裁きの杯
- ③贖いの杯
- ④賛美の杯

\*①と②は食事の前に飲む。

\*福音書には①と③だけが出てくる。

(2) 17節の杯は、①感謝の杯である。

- ①「杯」は単数形である。ひとつの杯を回し飲みした。

(3) 18節で、イエスは同じことをくり返された。

- ①メシア的王国が地上に設立される。
- ②そうなるまでは、過越の食事をしない。
- ③過越の食事で飲むぶどう酒は、自然発酵したものである。
- ④酵母を加えて発酵を促進したものは「コシエル」ではない。
- ⑤ヨハ19:30の「酸いぶどう酒」は、それに当たらない。

## II. 新しい契約(19～20節)

### 1. 19節

**Luk 22:19** それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

- (1) イエスが弟子たちに与えたパンは、アフィコーメンと呼ばれる。
  - ①3つの種なしパンの中央のものを半分に割り、それを布で包み隠す。
  - ②食事の途中、子どもたちがそれを探し、見つけるとご褒美がもらえる。
  - ③アフィコーメンは、食後のデザートとして食べられる。
  
- (2) 聖餐式の目的は、イエスの御業を記念することである。
  - ①ユダヤ教のラビたちは、アフィコーメンの儀式を神学的に説明できない。
  - ②メシヤニックジャーたちは、その意味を深く理解している。

## 2. 20節

**Luk 22:20** 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」

- (1) ①と②の杯は食前に、③と④の杯は食後に飲んだ。
  - ①これは、第3の杯（贖いの杯）である。
  - ②贖いの杯は、過越の子羊の流された血を象徴している。
  - ③この杯は、神の子羊イエスの血を象徴するものとなった。
  
- (2) 「わたしの血による、新しい契約です」
  - ①ぶどう酒は、イエスの血潮の象徴である。
  - ②イエスの血潮は、新しい契約のしるしである。
  - ③イエスの血潮は、罪の赦しのために流されるものである。

## III. 裏切りの予告（21～23節）

### 1. 21節

**Luk 22:21** しかし見なさい。わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓の上にあります。

- (1) ルカは、マタイとマルコとは異なり、裏切りの予告を契約締結後に置いている。
  - ①イエスの自己犠牲の愛と、ユダの利己的な心の対比がある。
  - ②この予告によって、弟子たちは驚いた。
  - ③親しい人物が、イエスを裏切るのである。

### 2. 22節

**Luk 22:22** 人の子は、定められたとおりに去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわ

ざわいです。」

- (1) 十字架の預言が語られる。
  - ①イエスは「人の子」、つまりメシアである。
  - ②イエスは「去って行く」、つまり殺される。
  - ③十字架の死は「定められたとおり」、つまり神の御心どおりである。
  
- (2) 裏切り者に、呪いが宣告される。
  - ①ユダヤ人の指導者たちの上に呪いが宣告された。
  - ②エルサレムの上に呪いが宣告された。
  
- (3) ここでは、神の主権と人間の責務が両立している。

### 3. 23節

Luk 22:23 そこで弟子たちは、自分たちのうちのだれが、そんなことをしようとしているのかと、互いに議論をし始めた。

- (1) 弟子たちは仰天して、犯人捜しの議論を始めた。
  - ①ユダもその議論に参加していた。
  - ②ユダには、悔い改めのチャンスが残されていた。
  - ③ユダは、過越の食事をともにした後で、イエスを裏切るのである。

## 結論

### 1. イエスの公生涯

- (1) 新約時代の教会には、2つの聖礼典が与えられている。
  - ①洗礼式
  - ②聖餐式
- (2) イエスの公生涯は、洗礼式とともに始まった。
  - ①分離ときよめの象徴である。
- (3) イエスの公生涯は、聖餐式とともに終わった。
  - ①信者の交わりと一体化の象徴である。

### 2. 神の国での過越の食事

- (1) イエスは、メシア的王国で過越の食事をすると約束された。
- (2) メシア的王国の始まりを告げる宴会において、食される。
- (3) 弟子たちは、メシア的王国がすぐにでも来ると期待した。
  - ①使1:6

Act 1:6 そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」

### 3. 最後の晩餐の意味

- (1) これは、愛する弟子たちとの別れの食事であった。
- (2) これは、愛する弟子たちに最後の説教をする場であった（ヨハ 13～17章）。
- (3) これは、より偉大な出エジプト（解放）が始まるきっかけとなる食事であった。
- (4) これは、神が私たちとの交わりを願っておられることを示す食事であった。
- (5) 聖餐式において私たちは、イエスの死を記念し、イエスの再臨を告白する。

ルカの福音書 96回  
二階の大広間での出来事（2）  
22：24～38

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難（22～23章）

- ①宗教的指導者たちの陰謀（22：1～6）
- ②過越の食事の準備（22：7～13）
- ③二階の大広間での出来事（22：14～38）
- ④イエスの逮捕（22：39～53）
- ⑤イエスの裁判（22：54～23：25）
- ⑥イエスの死（23：26～49）

(2) 二階の大広間での出来事（22：14～38）

- ①過越の食事（14～18節）
- ②新しい契約（19～20節）
- ③裏切りの予告（21～23節）
- ④弟子たちへの教え（24～30節）
- ⑤ペテロのつまずきの予告（31～34節）
- ⑥迫害に対する備え（35～38節）

(3) 注目すべき点

- ①共観福音書の中では、ルカの記述が最も詳しい。
- ②それよりも詳しいのは、ヨハネの福音書である（13～17章）。

2. アウトライン

- (1) 弟子たちへの教え（24～30節）
- (2) ペテロのつまずきの予告（31～34節）
- (3) 迫害に対する備え（35～38節）

3. 結論

- (1) ペテロの体験とヨブの体験
- (2) 1コリ10：13の意味

二階の大広間での出来事について学ぶ。

## I. 弟子たちへの教え（24～30節）

### 1. 24節

Luk 22:24 また、彼らの間で、自分たちのうちでだれが一番偉いのだろうか、という議論も起こった。

(1) イエスが、自らの死について語った直後に、この出来事が起こった。

- ①第3の杯によって新しい契約が結ばれた直後のことである。
- ②イエスは、数時間後に十字架につけられようとしている。
- ③タイミングも議論の内容も、最悪である。
- ④しかし、弟子たちはメシア的王国がすぐに来ると思込んでいる。
- ⑤彼らの関心事は、だれが一番偉いかということである。

(2) そこでイエスは、再度、謙遜について教える。

- ①9：46～48で、同じ議論が持ち上がっていた。
- ②イエスは、一人の子どもを立たせ、「一番小さい者が、一番偉い」と教えた。
- ③謙遜に関する教えは、すべての弟子たちにとって重要なものである。

### 2. 25～26節

Luk 22:25 すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々に対し権威を持つ者は守護者と呼ばれています。

Luk 22:26 しかし、あなたがたは、そうであってははいけません。あなたがたの間に一番偉い人は、一番若い者のようにになりなさい。上に立つ人は、給仕する者のようになりなさい。

(1) イエスは、この世と教会（信者の共同体）の違いについて教える。

- ①この世では、上位の者が下位の者を支配する。
- ②権威を持つ者は、「守護者」（良いわざを行う人）と呼ばれている。
- ③彼らは、タイトルが偉大なだけであって、人格が優れているわけではない。
- ④多くの場合、王たちは残酷な支配者たちであった。

(2) 教会の価値観

- ①偉くなりたいなら、一番年の若い者のようになれ。
- ②上に立つ人は、身を低くして仕えよ。
- ③「守護者」のタイトルにふさわしいのは、イエスだけである。
- ④使 10：38

Act 10:38 それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。

### 3. 27 節

**Luk 22:27 食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く人ではありませんか。しかし、わたしはあなたがたの間で、給仕する者のようにしています。**

#### (1) イエスの手本

- ①イエスは、給仕する者のように歩いて来られた。
- ②イエスに従う者は、イエスを模倣する必要がある。

#### (2) ルカは、異邦人読者を意識しながら、この部分を書いている。

- ①異邦人の文化では、地位や年齢が重視された。
- ②信者は、年齢や身分に関係なく、互いに仕え合うべきである。

### 4. 28～30 節

**Luk 22:28 あなたがたは、わたしの様々な試練の時に、一緒に踏みとどまってくれた人たちです。**

**Luk 22:29 わたしの父がわたしに王権を委ねてくださったように、わたしもあなたがたに王権を委ねます。**

**Luk 22:30 そうしてあなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食べたり飲んだりし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めるのです。**

#### (1) 今、弟子たちは、誰が一番偉いかと議論している。

- ①間もなく彼らは、イエスを捨てて逃げようとしている。
- ②しかしイエスは、彼らの失敗が一時的なものであることを知っておられた。

#### (2) 謙遜の教えとのバランスで、忠実な弟子たちへの報奨が約束された。

- ①父なる神は子なる神に、メシア的王国での王権を約束された。
- ②イエスは、ダビデの王座に着くために地上に戻って来る。
- ③そのときイエスは、弟子たちにイスラエルの12部族を裁く権威を与える。
- ④この約束は、忠実な生き方への動機づけとなる。
- ⑤次に、弟子たちの忠実さが試される。

## II. ペテロのつまずきの予告 (31～34 節)

### 1. 31～32 節

**Luk 22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。**

**Luk 22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。**



ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

- (1) 弟子たちは、試練から守られるのではなく、試練の中で守られる。
  - ①「シモン、シモン」という呼びかけは、元来のペテロに対するものである。
  - ②彼は、一時的に、「ペテロ」（岩）ではなくなる。
  - ③サタンは、使徒たち全員（あなたがた）を試すことを許された。
  - ④イエスは、ペテロ（あなた）のために祈られた。
    - \*ペテロが使徒たちの代表となっている。
    - \*サタンの誘惑よりも、イエスの力のほうがまさっている。
  - ⑤「立ち直る」とは、一時的な信仰の後退からの立ち直りである。
  - ⑥「兄弟たちを力づけてやりなさい」。
    - \*他の弟子たちも、失敗する。
    - \*これは、ペテロがリーダーになることの預言である。
  - ⑦ペテロは、復活のイエスに出会う最初の使徒となる。

## 2. 33～34 節

Luk 22:33 シモンはイエスに言った。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」

Luk 22:34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ、あなたに言っておきます。今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

- (1) イエスが死のうとしていることを認めたのは、ペテロが最初である。
  - ①ペテロは、自信過剰であった。
  - ②牢であろうと、死であろうと、どこまでもイエスに付いて行くと言う。
  - ③これは、「自分にはイエスの祈りは必要ではない」という傲慢なことばである。
  - ④人は、成長して初めて、自分ひとりで大きくなったのではないことが分かる。

- (2) ペテロのつまずきが予告される。

①マコ 14:30

Mar 14:30 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。まさに今夜、鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

- ②「鶏が二度鳴く」とは、時間を示す用語である。
  - \*一番鶏は、午前0時。
  - \*二番鶏は、午前3時。
- ③つまり、ペテロのつまずきが目前に迫っているということである。

## III. 迫害に対する備え（35～38 節）

### 1. 35～36節

Luk 22:35 それから、イエスは弟子たちに言われた。「わたしがあなたがたを、財布も袋も履き物も持たせずに遣わしたとき、何か足りない物がありましたか。」彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。

Luk 22:36 すると言われた。「しかし今は、財布のある者は財布を持ち、同じように袋も持ちなさい。剣のない者は上着を売って剣を買いなさい。

(1) この箇所は、ルカ固有の記録である。

- ①イエスがともにいたときには、財布、旅行袋、くつを持つ必要はなかった。
- ②それでも、不足する物はなかった。
- ③その教えが新しい内容に変更される。文脈が変わると、命令も変化する。

(2) イエスがいなくなるので、これから先は、必要な物は持つ。

- ①「財布、袋、剣」は文字どおりに解釈すべきか、比喩的に解釈すべきか。
- ②両方可能である。
- ③比喩的解釈では、襲ってくる試練への備えを強調しているという意味になる。

### 3. 37節

Luk 22:37 あなたがたに言いますが、『彼は不法な者たちとともに数えられた』と書かれていること、それがわたしに必ず実現します。わたしに関わることは実現するのです。」

(1) イエスは、イザヤ書 53 章を引用し、自分に適用する。

- ①イザヤ書 53 章がメシアの受難の預言であることを認めない人がいる。
- ②その人は、イエスの聖書解釈を否定する人である。

(2) 弟子たちへの教訓

- ①イエスは、メシア預言どおりに死ぬ。
- ②弟子たちは、激しい迫害に遭遇する。
- ③それゆえ、神への信頼と、霊的備えを確認する必要がある。

### 4. 38節

Luk 22:38 彼らが、「主よ、ご覧ください。ここに剣が二本あります」と言うと、イエスは、「それで十分」と答えられた。

(1) 弟子たちは、剣を買うということばを字義どおりに解釈した。

- ①彼らは、剣 2 本で敵と戦い、イエスを守ろうとした。
- ②「それで十分」とは、「It is enough.」である。
- ③「この話題はここまで」という意味である。

- (2) 霊的戦いにおいては、物理的な武器は役に立たない。
  - ① 私たちに必要なのは、神への信頼と、霊的備えである。
  - ② 弟子たちは、ゲツセマネの園での祈りにおいて、眠りこけることになる。

## 結論

### 1. ペテロの体験とヨブの体験

- (1) イエスはペテロにこれから起こることを予告した。
  - ① サタンがペテロを麦のようにふるいにかけることを許された。
  - ② イエスはペテロのために祈った。

- (2) これは、ヨブの体験と似ている（ヨブ1:10~11）。

Job 1:10 あなたが、彼の周り、彼の家の周り、そしてすべての財産の周りに、垣を巡らされたのではありませんか。あなたが彼の手のわざを祝福されたので、彼の家畜は地に増え広がっているのです。

Job 1:11 しかし、手を伸ばして、彼のすべての財産を打ってみてください。彼はきっと、面と向かってあなたを呪うに違いありません。」

### (3) 霊的戦いの内容

- ① 神は、ご自分の民を試すためにサタンを用いることがある。
- ② サタンは、ヨブを苦しめる前に神から許可を得る必要があった。
- ③ サタンがもたらす苦しみには、ある限界が設けられた。
- ④ それゆえ、サタンがもたらす苦しみは、耐えられないほどのものではない。

### 2. 1コリ10:13の意味

1Co 10:13 あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。

- (1) クリスマン生活における試練は、誰もが体験することである。
  - ① 使徒たちもまた、そこを通過した。

### (2) 試練中での慰め

- ① 神は私たちを、耐えられないほどの試練に合わせるようなことはしない。
- ② 試練とともに脱出の道も備えてくださる。
- ③ 大祭司であるイエスが、祈ってくださる。

ルカの福音書 97回

イエスの逮捕

22：39～53

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難 (22～23章)

- ① 宗教的指導者たちの陰謀 (22：1～6)
- ② 過越の食事の準備 (22：7～13)
- ③ 二階の大広間での出来事 (22：14～38)
- ④ イエスの逮捕 (22：39～53)
- ⑤ イエスの裁判 (22：54～23：25)
- ⑥ イエスの死 (23：26～49)

(2) イエスの逮捕 (22：39～53)

- ① ゲツセマネの園での祈り (39～46節)
- ② ユダの裏切り (47～53節)

(3) 注目すべき点

- ① このセクションの主要テーマは、患難への備えである。
- ② イエスは、祈りによって患難への備えを終える。
- ③ 弟子たちは、患難への備えをしなかった。
- ④ イエスの逮捕は、両者の備えの違いを浮き彫りにする。
- ⑤ ヨハ 16：33

Joh 16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

2. アウトライン

- (1) ゲツセマネの園での祈り (39～46節)
- (2) ユダの裏切り (47～53節)

3. 結論

- (1) イエスの苦悶
- (2) ペテロの失敗

患難への備えについて学ぶ。

## I. ゲツセマネの園での祈り (39~46節)

### 1. 39~40節

Luk 22:39 それからイエスは出て行き、いつものようにオリーブ山に行かれた。弟子たちもイエスに従った。

Luk 22:40 いつもの場所に来ると、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。

- (1) イエスと弟子たちは、オリーブ山に着いた。
  - ①「ゲツセマネの園」が省略されている。(読者の関心をそらさないためか)。
  - ②時間は、木曜日の夜10時~11時頃(すでに金曜日)であろう(遅い時間帯)。
  - ③イエスは、十字架を目前に控えて、必死の祈りをされる。
  - ④この祈りは、史上最大の霊的戦いの内容を明らかにしている。
  - ⑤イエスの苦悶を理解せずに、十字架の意味を味わうことは不可能である。
- (2) 「いつものようにオリーブ山に行かれた」
  - ①イエスが着いた場所は、ゲツセマネの園である。
  - ②ゲツセマネの園は、オリーブ山の西側、城壁に隣接した位置にある。
  - ③ユダに対して隠すものは何もない(イエスが状況を支配している)。
  - ④ゲツセマネとは、「オリーブの絞り場」という意味である。
  - ⑤オリーブ油は、聖霊の象徴である。
  - ⑥メシアは砕かれ、信じる者に聖霊を与える。
- (3) 「誘惑に陥らないように祈っていなさい」
  - ①この内容は、ルカだけが書いているものである。
  - ②これは、イエスのためではなく、自分自身のために祈れという命令である。
  - ③ここでの「誘惑」(ペイラスモス)とは、信仰のテストである。
  - ④イエスが逮捕されたときに、イエスと父への信仰を放棄するかどうか。
  - ⑤これは、弟子たち全員への指示である。

### 2. 41~42節

Luk 22:41 そして、ご自分は弟子たちから離れて、石を投げて届くほどのところに行き、ひざまずいて祈られた。

Luk 22:42 「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」

- (1) イエスは、弟子たちを残して、一人で園の奥に入って行った。

- ①ペテロとヤコブとヨハネの3人が途中まで同行したことは、書かれていない
- (2)「ひざまずいて祈られた」(祈り始めた)
  - ①この姿勢は、神への従順を示している。
  - ②「ひれ伏した」(マタ 26:39、マコ 14:35)
- (3)「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください」
  - ①「この杯」とは、神の怒りの杯である。
  - ②人間としてのイエスは、「この杯」が取り去られることを願った。
  - ③神の計画を無視して、自分の願いが成るように求めよというのが、誘惑である。
- (4)「しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように」
  - ①イエスは、父の御心を優先させた。
  - ②この祈りによって、イエスは誘惑に勝利された。
  - ③ルカの福音書を通して、イエスは父の御心を成就してこられた。
  - ④いかに死ぬかは、いかに生きてきたかによって決まる。
  - ⑤この祈りは、私たちの祈りの模範である。

### 3. 43～44 節

Luk 22:43 「すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。

Luk 22:44 イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。」

- (1) この部分も、ルカだけの記録である。
  - ①天使（単数形）がイエスを力づけた。
    - \*「荒野の誘惑」では、誘惑が終わってから天使たちがイエスに仕えた。
  - ②弟子たちは眠りこけていたが、イエスは孤独ではなかった。
    - \* 私たちも、孤独ではない。
  - ③「汗が血のしずくのように地に落ちた」
    - \* 激しい動揺により、発汗細胞が傷つき、血液が汗に混じる状態。
    - \* 神の怒りを予感した結果起こる動揺。

### 4. 45～46 節

Luk 22:45 イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに行ってお覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。

Luk 22:46 そこで、彼らに言われた。「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起

きて祈っていなさい。」

(1) ルカは、イエスが3度弟子たちのところに行ったことは省略している。

①強調点は、弟子たちの失敗よりも、イエスの祈りにある。

(2) 「どうして眠っているのか」

①こんな大切な時に、どうして眠っていられるのか。

(3) 「誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」

①信仰のテストに合格するためには、祈りの準備が必要である。

## II. ユダの裏切り (47~53 節)

### 1. 47~48 節

Luk 22:47 イエスがまだ話をしておられるうちに、見よ、群衆がやって来た。十二人の一人で、ユダという者が先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして近づいた。

Luk 22:48 しかし、イエスは彼に言われた。「ユダ、あなたは口づけで人の子を裏切るのか。」

(1) イエスを逮捕しようとする者たちが、ゲツセマネの園にやって来た。

①木曜日（金曜日になっている）の真夜中過ぎで、夜明けまではまだ時間がある。

②ここから、イエスの逮捕、裁判、十字架刑へと進んで行く。

(2) イエスの祈りとユダの裏切りが、密接に関連付けられている。

①逮捕される前に、イエスが祈り終わる必要があった。

②ユダが群衆を先導して来た。

(3) ユダの偽善

①「ユダという者」という表現は、イエスとユダの間に距離を置くためのもの。

②ユダは、イエスに口づけしようとした。

③口づけは、友情のしるし、ラビへの敬意のしるしである。

④「ユダ、あなたは口づけで人の子を裏切るのか」

\*口づけ、人の子、裏切り

### 2. 49~50 節

Luk 22:49 イエスの周りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ、剣で切りつけまじょうか」と言った。

Luk 22:50 そして、そのうちの一人が大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。

(1) 「主よ、剣で切りつけまじょうか」

- ①これは、許可を求めているのではなく、行動を起こすという宣言である。
- ②イエスは、祈りによって、父の御心に従う決心ができていた。
- ③弟子たちは、祈りによる準備ができていなかったため、自分の計画を実行した。

(2) 大祭司のしもべに切りかかったのがペテロであることは、伏せられている。

- ①ユダの罪の深さに比べれば、ペテロの失敗は軽微なものである。
- ②大祭司のしもべの右の耳を切り落とした。

\*ルカとヨハネが、これを記録している。

### 3. 51節

Luk 22:51 **するとイエスは、「やめなさい。そこまでしなさい」と言われた。そして、耳にさわって彼を癒やされた。**

(1) 「耳にさわって彼を癒やされた」

- ①敵に対するイエスの愛
- ②ペテロに対する守り

### 4. 52～53節

Luk 22:52 **それからイエスは、押しかけて来た祭司長たち、宮の守衛長たち、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って出て来たのですか。」**

Luk 22:53 **わたしが毎日、宮で一緒にいる間、あなたがたはわたしに手をかけませんでした。しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力です。」**

(1) イエスを逮捕するために押しかけて来たのは、イスラエルの指導者たちである。

- ①イエスは、彼らの偽善を指摘する。
- ②彼らは、イエスが宮で教えていたときは、イエスに手をかけなかった。

\*民衆を恐れたからである。

- ③しかし、暗闇の今、彼らはイエスを捕えようとしている。

(2) 「今はあなたがたの時、暗闇の力です」

- ①今は、悪魔が働く時である。
- ②悪魔の子である彼らも、働く。
- ③神は、一時的に悪魔の時を許可された。

## 結論

### 1. イエスの苦悶

- (1) イエスは、杯を取りのけてくださいと祈られた。



- ①「杯」とは、十字架の死のことではない。
- ②イエスは、十字架で死ぬために来られた。
  - \*ルカ 19 : 10、ヨハ 12 : 27、ヘブ 10 : 5~9、ピリ 2 : 8
- (2)「杯」とは、罪に対する神の怒りのことである。
  - ①聖書が聖書を解釈する。
    - \*詩 11 : 6、75 : 8、イザ 51 : 17、エレ 25 : 15、黙 14 : 10
  - ②神の怒りの杯を飲む者は、靈的に死んでいる不信者である。
    - \*彼らは、神から切り離された者たちである。
  - ③メシアの肉体的死は預言されていたが、靈的死の預言はない。
  - ④イエスは、靈的死（父との分離）について知って、驚かれたのであろう。
  - ⑤私たち人間には、父と子の分離がどういう意味をもつか理解できない。
  - ⑥靈的死を通過することで、イエスは私たちのために完璧な大祭司となられた。

## 2. ペテロの失敗

### (1) 4つの失敗

- ①内省すべきときに、傲慢になった。
- ②聞くべきときに、語り続けた。
- ③祈るべきときに、眠っていた。
- ④降伏すべきときに、戦った。

### (2) アダムとイエスの対比

- ①アダムは父に背いて、死をもたらした。
- ②イエス（最後のアダム）は、父への従順を学び、いのちをもたらした。
- ③私たちの手本は、最初のアダムではなく、最後のアダムである。

ルカの福音書 98回  
イエスの裁判（1）  
—ペテロを回復するイエスの愛—  
22：54～71

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難（22～23章）

- ①宗教的指導者たちの陰謀（22：1～6）
- ②過越の食事の準備（22：7～13）
- ③二階の大広間での出来事（22：14～38）
- ④イエスの逮捕（22：39～53）
- ⑤イエスの裁判（22：54～23：25）
- ⑥イエスの死（23：26～49）

(2) イエスの裁判（22：54～23：25）

- ①ペテロのつまずき（22：54～62）
- ②兵士たちのあざけり（22：63～65）
- ③最高法院による裁判（22：66～71）
- ④ピラトの前に立つイエス（23：1～7）
- ⑤ヘロデの前に立つイエス（23：8～12）
- ⑥2度目にピラトの前に立つイエス（23：13～25）

(3) 注目すべき点

①宗教裁判の3段階

- \* アンナスの前で（予備審問）
- \* カヤパの前で（夜明け前の私的な裁判）
- \* 最高法院の前で（夜明け後の公式な裁判）

②政治裁判の3段階

- \* ピラトの前で
- \* ヘロデの前で
- \* ピラトの前で

2. アウトライン

- (1) ペテロのつまずき（22：54～62）
- (2) 兵士たちのあざけり（22：63～65）

(3) 最高法院による裁判（22：66～71）

3. 結論：ペテロを回復するイエスの愛

イエスの裁判について学ぶ。

I. ペテロのつまずき（22：54～62）

1. 54節

Luk 22:54 彼らはイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペテロは遠く離れてついて行った。

(1) 裁判が始まる前に、ペテロのつまずきが紹介される。

- ①ペテロは、祈りによる準備ができていなかった。
- ②イエスの予告が成就した。
- ③イエスは、依然としてペテロを愛し、彼のことを気にかけている。

(2) 遠く離れてではあったが、ペテロはイエスの後について行った。

- ①もう1人、イエスの後について行ったのは、ヨハネである。
- ②過越の食事の準備をしたこの2人は、特別である。
- ③「大祭司の家」とは、アンナスとカヤパの住居である。

2. 55～57節

Luk 22:55 人々が中庭の真ん中に火をたいて、座り込んでいたので、ペテロも中に交じって腰を下ろした。

Luk 22:56 すると、ある召使いの女が、明かりの近くに座っているペテロを目にし、じっと見つめて言った。「この人も、イエスと一緒にいました。」

Luk 22:57 しかし、ペテロはそれを否定して、「いや、私はその人を知らない」と言った。

(1) ルカの記録は、マタイとマルコの記録と基本的には同じである。

- ①ペテロは、焚火を囲む人たちに交じって、腰を下ろした。
- ②召使いの女にイエスとの交友関係を指摘されたが、ペテロはそれを否定した。

(2) ルカ 9：23

Luk 9:23 イエスは皆に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」

- ①クリスチャンとは、自分を否定し、キリストを告白する人である。
- ②ペテロは、キリストを否定し、自分の身の安全を守った。

### 3. 58節

Luk 22:58 しばらくして、ほかの男が彼を見て言った。「あなたも彼らの仲間だ。」しかし、ペテロは「いや、違う」と言った。

(1) ペテロは、2度目にイエスを否定する。

①マコ 14：69

Mar 14:69 召使いの女はペテロを見て、そばに立っていた人たちに再び言い始めた。「この人はあの人たちの仲間です。」

②ここでは、召使いの女にほかの男が加わったのであろう。

③ルカは、男を出すことによって、ペテロが感じている抑圧を伝えている。

### 4. 59～60節

Luk 22:59 それから一時間ほどたつと、また別の男が強く主張した。「確かにこの人も彼と一緒にだった。ガリラヤ人だから。」

Luk 22:60 しかしペテロは、「あなたの言っていることは分からない」と言った。するとすぐ、彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。

(1) 「それから一時間ほどたつと」

①ルカは、時間の経過に関心を払っている。

②ペテロが通過していた精神的葛藤を想像することができる。

(2) 「また、別の男が強く主張した」

①ヨハ 18：26

Joh 18:26 大祭司のしもべの一人で、ペテロに耳を切り落とされた人の親類が言った。「あなたが園である人と一緒にいるのを見たと思うが。」

②ペテロがガリラヤ人であることは、ことばの訛りと衣服で分かる。

(3) 「あなたの言っていることは分からない」

①これは、最大級の否定である。

②「するとすぐ、鶏が鳴いた」

③イエスが予告したとおりである。

### 5. 61～62節

Luk 22:61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われた主のことばを思い出した。

Luk 22:62 そして、外に出て行って、激しく泣いた。

(1) イエスの視線は、衝撃的な効果を生んでいる。

- ①「見つめられた」は、「エンブレポウ」である。
    - \*愛をもって、関心をもって、見ることである。
  - ②ペテロは、イエスと目を合わせた瞬間に、イエスのことばを思い出した。
    - \*たった数時間前に語られたことばである。
- (2) ペテロは、大祭司の家を出て、激しく泣いた。
- ①「激しく泣く」とは、涙を流して泣くことである。
  - ②彼の心は、後悔の思いで満たされた。

## II. 兵士たちのあざけり（22：63～65）

### 1. 63～65節

Luk 22:63 さて、イエスを監視していた者たちは、イエスをからかい、むちでたたいた。

Luk 22:64 そして目隠しをして、「当ててみる、おまえを打ったのはだれだ」と聞いた。

Luk 22:65 また、ほかにも多くの冒涇のことばをイエスに浴びせた。

- (1) この部分は、裁判の記事に入るための導入である。
- ①ペテロの自己愛と、イエスの犠牲的愛の対比がある。
- (2) ルカは、イエスの苦しみを、共観福音書の中では最も詳しく記録している。
- ①彼は、イエスの人間性を強調している。
  - ②イエスは、訴える者たちの手によって苦しまれた。
- (3) イエスを監視していた者たちは、神殿の警備に当たる護衛たちである。
- ①神殿の守護者がイエスを苦しめるのは、皮肉なことである。
  - ②彼らは、預言の意味を誤解していた。

## III. 最高法院による裁判（22：66～71）

### 1. 66節

Luk 22:66 夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まり、イエスを彼らの最高法院に連れ出して、こう言った。

- (1) 宗教裁判の3段階
- ①アンナスの前で（予備審問）
  - ②カヤパの前で（夜明け前の私的な裁判）
  - ③最高法院の前で（夜明け後の公式な裁判）
- (2) 最高法院（サンヘドリン）は、イスラエルの最高裁判所である。

- ①死刑判決を出すための裁判は、日中に行う必要があった。
- ②大祭司の家で裁判を開くのは、違法である。
- ③1日で判決を出すのも違法である。
- ④彼らは、急いでイエスをピラトのもとに連れて行こうとしていた。

## 2. 67～68節

Luk 22:67 「おまえがキリストなら、そうだと言え。」しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょう。」

Luk 22:68 わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。

- (1) 議員たちの興味は、ピラトの前でどういう罪状を示すかという点にある。
  - ①彼らは、「おまえがキリストなら、そうだと言え」と迫った。
- (2) イエスは答えない。
  - ①答えても、彼らの心が変わることはない。
  - ②そもそも、彼らのメシア観とイエスのメシア観は、別物である。

## 3. 69～70節

Luk 22:69 だが今から後、人の子は力ある神の右の座に着きます。」

Luk 22:70 彼らはみな言った。「では、おまえは神の子なのか。」イエスは彼らに答えられた。

「あなたがたの言うとおり、わたしはそれです。」

- (1) イエスは、自分のことを「人の子」と言われた。
  - ①ルカ 20：41～44 に「人の子は、なぜダビデの子なのか」という議論があった。
  - ②これは、2日ほど前に行われた議論である。
  - ③イエスは、父なる神との密接な関係を主張した。
- (2) 「人の子」は、終末的なメシアの称号である。
  - ①人の子が神の右の座に着くのは、終末的約束である（ダニ 7：13～14）。
  - ②イエスの召天と再臨が示唆されている。
- (3) 議員たちは、「おまえは神の子なのか」と迫った。
  - ①イエスは、それを認めた。

## 4. 71節

Luk 22:71 そこで彼らは「どうして、これ以上証言が必要だろうか。私たち自身が彼の口から聞いたのだ」と言った。

(1) これで、イエスの冒とく罪が確定した。

- ①最高法院は、イエスをローマの法廷に訴え、死刑を求刑する準備ができた。
- ②しかし、冒とく罪以外の罪状をでっち上げる必要があった。

### 結論：ペテロを回復するイエスの愛

#### 1. 神の守り

(1) ペテロは、私たちのためのリトマス試験紙である。

- ①つまり、神が罪人をどのように回復されるかを示す事例である。

(2) ルカ 22：61～62

Luk 22:61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われた主のことばを思い出した。

Luk 22:62 そして、外に出て行って、激しく泣いた。

- ①宗教裁判の第2段階が終了した。
- ②引かれて行くイエスは、ペテロを見つめた。
- ③イエスの目は、怒りの目ではなく、優しい目であった。
- ④ペテロは、外に出て、激しく泣いた。
- ⑤これは、悔い改めの嘆きであり、涙である。
- ⑥悔い改めは、真の信仰者のしるしである。

(3) ルカ 22：31～32

Luk 22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。

Luk 22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

(4) ガリラヤ湖畔でのペテロの回復（ヨハ 21 章）

- ①和解の食事
- ②「わたしを愛するか」という3度の質問

ルカの福音書 99回

イエスの裁判(2)

—その男を殺せ。バラバを釈放しろ。—

23:1~25

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難(22~23章)

- ① 宗教的指導者たちの陰謀(22:1~6)
- ② 逾越の食事の準備(22:7~13)
- ③ 二階の大広間での出来事(22:14~38)
- ④ イエスの逮捕(22:39~53)
- ⑤ イエスの裁判(22:54~23:25)
- ⑥ イエスの死(23:26~49)

(2) イエスの裁判(22:54~23:25)

- ① ペテロのつまずき(22:54~62)
- ② 兵士たちのあざけり(22:63~65)
- ③ 最高法院による裁判(22:66~71)
- ④ ピラトの前に立つイエス(23:1~7)
- ⑤ ヘロデの前に立つイエス(23:8~12)
- ⑥ 2度目にピラトの前に立つイエス(23:13~25)

2. アウトライン

- (1) ピラトの前に立つイエス(23:1~7)
- (2) ヘロデの前に立つイエス(23:8~12)
- (3) 2度目にピラトの前に立つイエス(23:13~25)

3. 結論

- (1) ヘロデの悲劇
- (2) ピラトの悲劇

イエスの裁判(2)について学ぶ。

I. ピラトの前に立つイエス(23:1~7)

1. 1~2節

Luk 23:1 集まっていた彼ら全員は立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。



Luk 23:2 そしてイエスを訴え始めて、こう言った。「この者はわが民を惑わし、カエサルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることが分かりました。」

(1) 「彼ら全員」とは、最高法院のことである。

①最高法院が主導して、イエスをローマの法廷に訴えた。

(2) 3つの訴え

①イエスは偽預言者であり、ユダヤの民を惑わしている。

\*民を惑わしているのは、指導者たちのほうである。

②カエサルに税金を納めることを禁じている。

\*これは偽りの訴えである。イエスはそれとは逆のことを教えていた。

③自分は王キリストだと言っている。

\*これは、事実である。

\*ピラトが関心を払ったのは、この点だけである。

## 2. 3～4節

Luk 23:3 そこでピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは答えられた。「あなたがそう言っています。」

Luk 23:4 ピラトは祭司長たちや群衆に、「この人には、訴える理由が何も見つからない」と言った。

(1) ピラトは、イエスの証言を引き出した。

①「あなたがそう言っています」とは、「そのとおり」という意味である。

(2) ピラトは、イエスの無罪を宣言した。

①3節と4節の間に、尋問が入る（ヨハ18：35～38）。

②ピラトは、イエスは政治的な脅威ではないことを認めた。

③ルカは、その部分を省略し、結論に飛んでいる（ルカだけの記録）。

\*キリスト教は脅威ではないことを強調している。

## 3. 5～7節

Luk 23:5 しかし彼らは、「この者は、ガリラヤから始めてここまで、ユダヤ全土で教えながら民衆を扇動しているのです」と言い張った。

Luk 23:6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、

Luk 23:7 ヘロデの支配下にあると分かると、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころ、エルサレムにいたのである。

(1) 彼らは、イエスはガリラヤから始めて、エルサレムまで来たと言い張った。

- ①イエスの犯罪行為は、ガリラヤから始まった。
- (2) これが、政治裁判が第1段階から第2段階に移行する「きっかけ」となった。
  - ①ローマ法では、ガリラヤの支配者がガリラヤ人を裁くことは許される。
  - ②ピラトがイエスはガリラヤ人かと尋ねたのは、そういう理由からである。
  - ③もしそうなら、イエスはガリラヤの領主ヘロデの支配下にあることになる。
  - ④そこでピラトは、イエスを裁く権利をヘロデに譲ることにした。
    - \*彼は、イエスの裁判から手を引きたかったのである。
- (3) このヘロデは、ヘロデ大王の息子のヘロデ・アンティパスである。
  - ①彼は、ガリラヤの領主(王よりも低いタイトル)であった。
  - ②彼は、兄弟の妻ヘロデヤとの結婚を、バプテスマのヨハネから批判された。
    - \*そこで彼は、バプテスマのヨハネを逮捕し、幽閉した。
    - \*ヘロデヤの娘サロメとの約束を守るために、ヨハネの首をはねた。
    - \*イエスのことを復活したヨハネかもしれないと思っていたことがある。
  - ③このヘロデが、過越の祭りのためにエルサレムに滞在していた。
  - ④彼は、神殿の西側にある王宮に滞在していた。
    - \*これは、ハスモン王朝時代の豪華な王宮である。
- (4) ピラトとヘロデは、互いを牽制し合う仲であった。
  - ①ピラトは、イエスをヘロデのところへ送った。
  - ②法廷が変更になったのである。
  - ③当然、イエスを訴えているユダヤ人の指導者たちもそこに移動した。

## II. ヘロデの前に立つイエス(23:8~12)

### 1. 8節

Luk 23:8 ヘロデはイエスを見ると、非常に喜んだ。イエスのことを聞いていて、ずっと前から会いたいと思い、またイエスが行うしるしを何か見たいと望んでいたからである。

- (1) ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。
  - ①ずっと前からイエスの噂を聞いていた。
  - ②イエスに会いたいと思っていた(イエスに対する恐れは消えていた)。
  - ③その理由は、イエスが行う奇跡を見たいと思ったからである。

### 2. 9~10節

Luk 23:9 それで、いろいろと質問したが、イエスは何もお答えにならなかった。

**Luk 23:10 祭司長たちと律法学者たちはその場において、イエスを激しく訴えていた。**

(1) ヘロデはいろいろ質問した。

①質問し続けた。

(2) イエスの応答は、沈黙であった。

①イエスはすでにピラトの前で証言していた。

②イエスは、ヘロデ・アンティパスを救う努力はしなかった。

\* イエスは彼を「あの狐」と呼んでいた(ルカ13:32)。

\* ヘロデは狡猾な老狐であり、悪名高いヘロデ一家の一員である。

\* ヘロデの動機が間違っている。イエスを「見世物」としか考えていない。

(3) ユダヤ人の指導者たちはイエスを激しく訴え続けた。

①彼らは、暴言を吐き、大騒ぎしていた。

②ヘロデは、このままでは何も起こらないと判断した。

### 3. 11~12節

**Luk 23:11 ヘロデもまた、自分の兵士たちと一緒にイエスを侮辱したり、からかったりしてから、はでな衣を着せてピラトに送り返した。**

**Luk 23:12 この日、ヘロデとピラトは親しくなった。それまでは互いに敵対していたのである。**

(1) ヘロデは、イエスを文字どおり「見世物」扱にした。

①兵士たちだけでなく、ヘロデもイエスを侮辱した。

②「はでな衣」とは、ユダヤ人の王が着る白い王服であろう。

\* 自分は王だというイエスの主張をあざけたのである。

(2) ヘロデは、イエスを無罪だと認めて、ピラトのもとに送り返した。

①この日、敵対していた者同士が、親しくなった。

## III. 2度目にピラトの前に立つイエス(23:13~25)

### 1. 13~14節

**Luk 23:13 ピラトは、祭司長たちと議員たち、そして民衆を呼び集め、**

**Luk 23:14 こう言った。「おまえたちはこの人を、民衆を惑わす者として私のところに連れて来た。私がおまえたちの前で取り調べたところ、おまえたちが訴えているような罪は何も見つからなかった。」**

(1) ピラトはイエスの無罪を宣言する。

- ①ヘロデの意見を参考にした上での宣言である。
- ②この宣言を、祭司長たちと議員たち、それに民衆の前で行った。
- ③民衆はラオス、群衆はオクロスである。
  - \*ルカはこの2つの用語を区別して用いている。
  - \*前者は、イエスに敵対しなった人たち、信じる者が出た人たちである。
  - \*後者は、イエスから何かもらうことを期待して付いてきた人たちである。
- ④ピラトは、民衆の中にイエスを支持する者がいることを期待したのである。

(2) ピラトは、法律用語を用いて、判決を下した。

- ①彼にとっては、イエスを有罪にするのは困難なことであった。

## 2. 15～16節

**Luk 23:15** ヘロデも同様だった。私たちにこの人を送り返して来たのだから。見なさい。この人は死に値することを何もしていない。

**Luk 23:16** だから私は、むちで懲らしめたうえで釈放する。」

(1) ピラトは、ヘロデの意見を引用した。

- ①ヘロデは、ユダヤ人の係争に関しては、ローマ人の自分よりも知識がある。
- ②ピラトとヘロデは、意見の一致を見た。

(2) ピラトは、無罪の人間を罰することにした。

- ①訴える者たちをなだめるために。ピラトは妥協している。
- ②自分を煩わせたことに対して罰を与えるために。
- ③イエスが受けたむち打ちは、非常に厳しいものであった。
- ④次の17節は、信頼できる写本には出てこない。

## 3. 18～19節

**Luk 23:18** しかし彼らは一斉に叫んだ。「その男を殺せ。バラバを釈放しろ。」

**Luk 23:19** バラバは、都に起こった暴動と人殺しのかどで、牢に入れられていた者であった。

(1) 「彼ら」とは、祭司長たちと議員たち、それに民衆である。

- ①民衆は、指導者たちから影響を受けた。
- ②ここに、この場面の悲劇がある。

(2) 彼らは、バラバの釈放を要求した。

- ①イエスとは対極にある人物である。
- ②彼らは、救い主を拒否し、暴動と人殺しの犯人を支持した。

#### 4. 20～23節

Luk 23:20 ピラトはイエスを釈放しようと思って、再び彼らに呼びかけた。

Luk 23:21 しかし彼らは、「十字架だ。十字架につけろ」と叫び続けた。

Luk 23:22 ピラトは彼らに三度目に言った。「この人がどんな悪いことをしたというのか。彼には、死に値する罪が何も見つからなかった。だから私は、むちで懲らしめたうえで釈放する。」

Luk 23:23 けれども、彼らはイエスを十字架につけるように、しつこく大声で要求し続けた。そして、その声がいよいよ強くなっていった。

(1) ピラトは、イエスを釈放しようとして、理性に訴えかけた。

①彼らは、最高刑である十字架刑を要求した。

(2) ピラトは、イエスが無罪であることを3度も口にした。

①彼らの声は、その度に大きくなっていった。

②イエスを有罪にしたのは、ピラトではなく、ユダヤ人の指導者と民衆である。

#### 5. 24～25

Luk 23:24 それでピラトは、彼らの要求どおりにすることに決めた。

Luk 23:25 すなわち、暴動と人殺しのかどで牢に入れられていた男を願いどおりに釈放し、他方イエスを彼らに引き渡して好きなようにさせた。

(1) ピラトは、彼らの要求に屈服した。

①彼は、平和の維持を優先させた。

②彼は、自分の地位を守ることを優先させた。

(2) これは神の計画の成就であるが、ルカはそのことに言及しない。

①ルカは、ユダヤ人の中の特定のグループの責任を強調している。

②この出来事を、反ユダヤ主義の根拠にしてはならない。

### 結論

#### 1. ヘロデの悲劇

(1) ルカ 23:8

Luk 23:8 ヘロデはイエスを見ると、非常に喜んだ。イエスのことを聞いていて、ずっと前から会いたいと思い、またイエスが行うしるしを何か見たいと望んでいたからである。

①「喜んだ」は、「カイロウ」という動詞である。

②ヘロデは非常に喜んだが、それは的外れの喜びであった。

③彼は、本当の喜びを体験したことがなかった。

(2) 本当の喜び(カイロウ、スンカイロウ)

①羊飼いの喜び(ルカ15:5~6)

②婦人の喜び(ルカ15:8~9)

③父の喜び(ルカ15:32)

④ザアカイの喜び(ルカ19:6)

(3) ヘロデのその後

①妻のヘロデヤが野心を抱いた。

②夫婦でローマ皇帝カリギュラに近づき、王と女王のタイトルを願い出た。

③結果的に、彼らは今のフランスのリオンに追放され、極貧の中で死を迎えた。

## 2. ピラトの悲劇

(1) 彼は、イエスが無罪であることを知りながら、十字架刑を宣言した。

(2) 紀元36年、シリア総督がローマ本国に対してピラトを激しく訴えた。

①ピラトは皇帝の前で釈明するために帰国したが、成功しなかった。

②ある伝承では、彼はフランスに追放されたとされる。

③別の伝承では、ルツェルン湖(スイス中央部)の近くにある山(ピラトゥス山)に追放されたとされる。

④歴史家エウセビオスは、ピラトは自殺したと伝えている。

ルカの福音書 100回

ヴィア・ドロローサ

—苦しみの道—

23:26~32

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難 (22~23章)

- ① 宗教的指導者たちの陰謀 (22:1~6)
- ② 過越の食事の準備 (22:7~13)
- ③ 二階の大広間での出来事 (22:14~38)
- ④ イエスの逮捕 (22:39~53)
- ⑤ イエスの裁判 (22:54~23:25)
- ⑥ イエスの死 (23:26~49)

(2) イエスの死 (23:26~49)

- ① ヴィア・ドロローサ (23:26~32)
- ② 十字架上のイエス (23:33~49)

(3) ヴィア・ドロローサの意味

- ① ラテン語で「苦しみの道」という意味である。
- ② イエスがゴルゴタの丘に向かった際の経路である。
- ③ この伝承は、十字軍時代に定着した。
- ④ 伝統的に14留(ステーション)ある。

2. アウトライン

- (1) クレネ人シモン (26節)
- (2) 嘆き悲しむ女たち (27~31節)
- (3) 2人の犯罪人 (32節)

3. 結論:クレネ人シモン

ヴィア・ドロローサでの出来事について学ぶ。

1. クレネ人シモン (26節)

1. 26節

Luk 23:26 彼らはイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというクレネ人を捕まえ、

**この人に十字架を負わせてイエスの後から運ばせた。**

- (1) このときのイエスの肉体的状態
  - ①ピラトがイエスを鞭で打った。
  - ②鞭で打たれたイエスの肉体は、悲惨な状態に陥った。
  - ③特に、出血多量で危険な状態になった。
  - ④罪人は、十字架(横木)を負って刑場まで行進する。
  - ⑤イエスにとっては、その行程はまさに「苦しみの道」となった。
  
- (2) 十字架刑は、長時間苦しめながら死に至らせる見せしめの刑である。
  - ①もしイエスが刑場に向かう途中で死ねば、その目的は半分しか達成されない。
  - ②第5ステーションから上り坂に入る。
  - ③ローマ兵たちは、イエスの代わりに十字架を負う人物を探した。
  - ④それによって、イエスは一時的に楽になるが、最後に十字架刑が待っている。
  
- (3) イエスの代わりに十字架を負わされたのは、クレネ人シモンである。
  - ①ローマは、支配下にある民をいつでも徴用することができた。
  - ②クレネは、北アフリカにあった町である。
  - ③シモンは、過越の祭りを祝うために都に来ていた巡礼者のユダヤ人である。
  - ④彼は、十字架を負ってイエスの後を歩いた。

**II. 嘆き悲しむ女たち (27~31 節)**

1. 27~28 節

**Luk 23:27 民衆や、イエスのことを嘆き悲しむ女たちが大きな一群をなして、イエスの後について行った。**

**Luk 23:28 イエスは彼女たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣いてはいけません。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのために泣きなさい。」**

- (1) ルカだけが、この逸話を記録している。
  - ①エルサレムの崩壊は、ルカの大きな関心事である。
  
- (2) 「民衆」とは、イエスの教えを聞き、イエスを支持していた人たちであろう。
  - ①ルカは、特に嘆き悲しむ女たち取り上げている。
    - \*女性に焦点を合わせるのは、ルカの福音書の特徴である。
  - ②嘆き悲しむ女たちとは誰か。
    - \*当時は、葬送の列に「泣き女」が同行する習慣があった。
    - \*刑場まで同行し、十字架にかかる前に鎮痛剤を与えた。



\*ユダヤ人たちは、愛国主義の受刑者に敬意を表した。

\*ローマもこのような行為を許していた。

\*しかし、死後の弔いは禁じられていた。

\*これまでの例では、イエスは泣き女たちの活動を喜んではいなかった。

③この女たちは、イエスの受難によって心を痛めている信仰のある女たちである。

\*彼女たちは、純粹に心を痛め、悲しみの中にあった。

(3) イエスは、嘆き悲しむ女たちに声をかけた。

①イエスは、肉体的な苦痛の中でも奉仕を続けた。

②「エルサレムの娘たち」と呼びかけた。

\*彼女たちは、ガリラヤの女たちではなく、エルサレムの住民であった。

③イエスのことよりは、自分と自分の子どもたちのために嘆き悲しむべきである。

## 2. 29～30節

Luk 23:29 **なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は幸いだ』という日が来るのですから。**

Luk 23:30 **そのとき、人々は山々に向かって『私たちの上に崩れ落ちよ』と言い、丘に向かって『私たちをおおえ』と言い始めます。**

(1) この時代、不妊は不運なこと、子を持つのは幸運なことと考えられていた。

①将来、逆転現象が起こるようになる。

②イエスのことばは、エルサレム崩壊の預言である。

(2) イエスの勧告の背景には、ホセ 10：8の預言がある。

Hos 10:8 **イスラエルの罪である／アベンの高き所は滅ぼし尽くされる。／茨とあざみが／彼らの祭壇の上に生い茂る。／彼らは山々に向かって／「私たちをおおえ」と言い、／丘に向かって／「私たちの上に崩れ落ちよ」と言う。**

①嘆き悲しむべき理由は、彼らに悲惨なことが起こるからである。

## 3. 31節

Luk 23:31 **生木にこのようなことが行われるなら、枯れ木には、いったい何が起こるでしょうか。」**

(1) これは格言である。

①生木とは、イエスのことである。

\*聖なるイエスがこのような仕打ちを受けている。

②枯れ木とは、罪人たちのことである。

\*ましてや、罪人がさらに激しい苦難に遭わないはずがない。

(2) この格言の背景は、エゼ 20：46～47 である。

Eze 20:46 「人の子よ。顔を右の方に向け、南に向かって語りかけ、ネゲブの野の森に向かって預言し、

Eze 20:47 ネゲブの森に言え。『【主】のことばを聞け。【神】である主はこう言われる。見よ、わたしはおまえのうちに火をつける。その火はおまえのうちの、すべての生木とすべての枯れ木を焼き尽くす。その燃える炎は消されず、南から北まで地の面すべてが焼かれる。

(3) これは、エルサレム崩壊までの期間を生かすようにという勧めである。

①個人的にも国家的にも、40年間の悔い改めの期間が残されている。

### III. 2人の犯罪人 (32節)

#### 1. 32節

Luk 23:32 ほかにも二人の犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために引かれて行った。

(1) この節は、ヴィア・ドロローサとゴルゴタの丘をつなぐ架け橋になっている。

①2人の犯罪人の姿が、今回の場面で詳細に描かれる。

(2) この節は、イエスの辱めを表現している。

①イザ 53：12

Isa 53:12 それゆえ、／わたしは多くの人を彼に分け与え、／彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。／彼が自分のいのちを死に明け渡し、／背いた者たちとともに数えられたからである。／彼は多くの人々の罪を負い、／背いた者たちのために、とりなしをする。」

#### 結論：クレネ人シモン

##### 1. クレネは、現在の北アフリカのリビアに位置する。

(1) 北アフリカで栄えていた5つの町（ペンタポリス）の1つである。

(2) ギリシア・ローマ時代を通じて、ヘレニストのユダヤ人の共同体があった。

(3) 最盛期には、10万人の人口を擁した。

(4) 紀元115年にユダヤ人の反乱が起こり、町は衰退した。

(5) そして、5世紀には廃墟となった。

##### 2. シモンは、ユダヤ人の一般的な名前である。

(1) 彼は、巡礼祭でエルサレムに来ていたユダヤ人である。

(2) 「ニゲルと呼ばれるシメオン」(使 13：1) とは別人であろう。

(3) シモンに関する情報は少ない。

### 3. マコ 15：21 の情報

Mar 15:21 兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負させた。彼はアレクサンドロとルフォスの父で、田舎から来ていた。

- (1) マルコだけが、「アレクサンドロとルフォスの父」と書いている。
- (2) マルコの福音書は、ローマ世界の異邦人のために書かれた。
- (3) マルコの福音書の読者には、アレクサンドロとルフォスはよく知られていた。

### 4. ロマ 16：13 の情報

Rom 16:13 主にあって選ばれた人ルフォスによろしく。また彼と私の母によろしく。

- (1) ルフォスとその母の名が登場する。
  - ①「選ばれた人」とは、重責を担っている人、よく知られた人の意味。
  - ②その母は、パウロにとっても母のような人。
  - ③シモンの一家は、信者になり、クレネからローマに移住した。
  - ④ローマの教会は、シモン一家のようなユダヤ人信者たちによって設立された。
  - ⑤この事実は、私たちにとっても励ましとなる。

### 5. ルカ 9：23 の情報

Luk 9:23 イエスは皆に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。

- (1) クレネ人シモンは、理想的な弟子の型である。
- (2) それゆえルカは、このエピソードを取り上げたのである。